● 発行日 ●
令和８年
11月4日
NO.296

恵那市教育研究所だより

Ena City Institute of Educational Research Newsletter

えな



恵那市教育研究所　恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所 西庁舎4階
https://www.city.ena.lg.jp　TEL (0573)26-6850　FAX(0573)26-2155

作品：「かぞくではみがき」
串原小学校　2年生　桝本　蛍さん

幼児教育が育む人生の土台



恵那市こども園園長会　会長
上矢作こども園
安藤　美香子

先日、大学生になった教え子から園に電話がありました。私が今の園にいることを知ったようで、「帰省しているので、園に会いに行ってもいいですか」と。もちろん喜んで了承すると、しばらくして園を訪ねてきてくれました。会うのは卒園式以来に近く、幼い頃の面影を残しながらも、すっかり成長した姿に、これまでの年月を懐かしく思い返しました。そして、今こうして自分のことを話しに来てくれたことを、とても嬉しく感じました。

話はすぐに弾み、同級生のことや「年長の時、○○の劇をやったよね。あれ、楽しかった～」といった思い出話に花が咲きました。やがて、これまでの学生生活で悩んだこと、その時に何を考え、どのように向き合い、乗り越えてきたのかを話してくれました。今は興味や関心のある分野を学び、喜びを感じていること、さらに就職活動を通して、どのように生きたいのか、どんな仕事に携わりたいのかを、飾らない言葉で語ってくれました。

幼い頃の担任のことなど、大人になるにつれて忘れてしまうこともあるかもしれません。それでも、何年も経った今、私のもとを訪ね、これまでの歩みや今の思いを話してくれたことは、幼児期の教育が子供の人生に残すものについて改めて考える機会になりました。

幼児期は、人としての土台を育てる大切な時期です。自分が大切にされていると感じること、思いを受け止めてもらうこと、友達とのかかわりの中で喜びや葛藤を味わうこと、失敗してももう一度挑戦しようと思えること。そして、「やってみたい」という気持ちを受け止め、寄り添ってもらうこと。目の前の園児たちも、日々の生活の中でこうした経験を重ねています。これらの経験はすぐに目に見える成果として表れるものではありません。だからこそ、私たちは子供たちの「今」だけでなく、学校での学び、社会での生活、そして一人の人間としての人生を見据えながら、日々の保育を考えていく必要があるのだと思います。保育教諭が子供たちと過ごす時間は、長い人生の中ではほんの一瞬です。しかし、その一瞬のかかわりが子供たちの心に残り、いつか自分の人生を歩む時の支えになるかもしれません。私たち保育教諭の仕事は、子供たちの成長をその場で完成させることではなく、これから続く人生に向けて、一人一人の心に豊かな土台を築くことなのだと、今回の教え子との再会を通して改めて感じました。「会いたい、話したい」と思って訪ねてきてくれた教え子の姿に、喜びとともに、教育に携わる者としての責任も感じました。

幼児教育で育まれた心は、小学校での学びにつながり、中学校、さらにその先への挑戦へと広がり、やがて社会の中で自分らしく生きる力につながっていきます。この「学びの連続性」を大切にし、子供たちの育ちを途切れさせることなく支えていける恵那市であってほしいと思います。

目の前の子供たちの「今」を大切にしながら、一人一人の未来が豊かなものになることを願っています。

いつか成長した子供たちが自分の歩みを振り返った時、「こども園、楽しかったな～」と共に「あの頃、自分は大切にされていた」「先生は自分を信じてくれていた」「先生が守ってくれていた」と感じてくれたなら、それは教育に携わる者として大きな喜びです。今回の教え子のように、何年もの時を経てふと私のことを思い出し、会いに来てくれたのなら、幼い頃に過ごした時間が心のどこかに残っていたのだと思い、嬉しく感じます。

これからも一人一人の心に寄り添い、その可能性を信じながら、家庭・園・学校・地域が連携した、人生の土台を育む幼児教育を進めていきたいと思います。

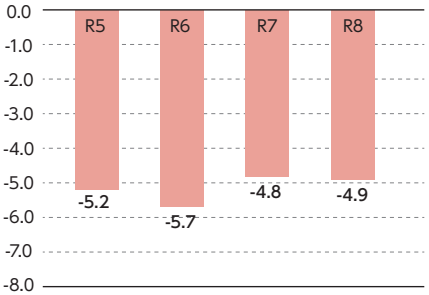
特集 令和8年度 全国学力・学習状況調査（恵那市の結果）

小学校　国語

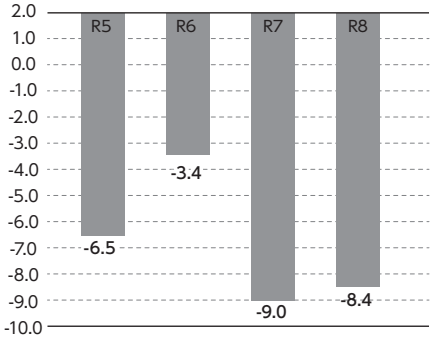
県及び全国との平均正答率を比較すると、県からは3ポイント、全国からは4.9ポイント下回っています。学習指導要領の内容別では、「知識及び技能」の「情報の扱いに関する事項」は県の平均を上回りましたが、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」において課題が見られました。特に「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題が正答率の低い問題でした。『伝えたいことが伝わる改善策について考えるなど、目的に応じた資料や論の進め方を考える場面をもつ』ことを授業で大切にしていきましょう。



恵那市から見た全国平均との差（小学校 国語）



恵那市から見た全国平均との差（小学校 算数）



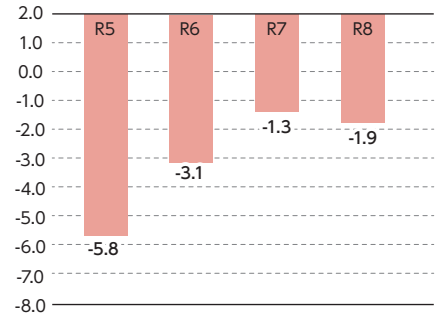
小学校　算数

全国との平均正答率を比較すると、全国からは8.4ポイント下回っています。

領域別に見ると「A 数と計算」が、全国の平均正答率と最も開きがあり、「C 変化と関係」の正答率が最も低い結果となっています。特に「数直線上に「0」と「 5/3」が示されている中で、「1」を表す目盛りを選択肢から選ぶ」問題が全国の正答率と最も差のある問題でした。『いつでも教師が数直線をかいて示したり、プリントとして準備したりするのではなく、特に単元の終末では、数直線を自分でかくように促し、教師が「もとにする数（単位分数）は何か」「1はその単位分数の何個分か」を問う』ことを授業で大切にしていきましょう。



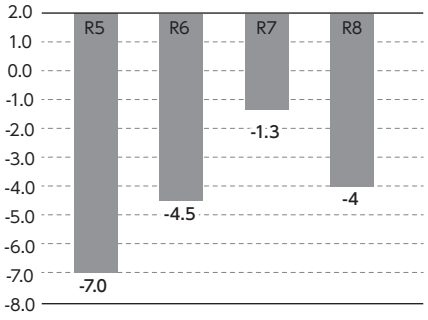
恵那市から見た全国平均との差（中学校 国語）



中学校　国語

平均正答率の差を見ると、県との差はマイナス３ポイントで、全国との差はマイナス1.9ポイントであり、全国、県の平均正答率を下回る結果となりました。ただし、R5年度の小学校６年生の時の結果と比べると、県との差は変わっていませんが、全国との差は3.3ポイント小さくなっています。分類別に見ると「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」において差が大きくなっています。特に「助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる」問題が正答率の低い問題でした。『「読むこと」の学習で、助動詞が加わった場合と加わらなかった場合の違いを比較して考えるなど、日常的に文法について考える機会を位置付ける』ことを大切にしていきましょう。

恵那市から見た全国平均との差（中学校 数学）



中学校　数学

全国との平均正答率を比較すると、全国からは４ポイント下回っています。ただし、R５年度の小学校６年生の時の結果と比べると2.5ポイント差が小さくなっています。

領域別に見ると「C 関数」が、全国の平均正答率と最も開きがあり、「B 図形」の正答率が最も低い結果となっています。特に「反比例の関係を表す表から対応する値を求める問題」が全国の正答率と最も差のある問題でした。『表の数値を指で指し示しながら「反比例では、表の縦の列（対応する x と y の値）をかけるといつも比例定数のa（一定）になる」という性質を生徒自身に実感・理解させる活動を位置付ける』ことを授業で大切にしていきましょう。

中学校　英語

※今回よりIRTスコアによる得点表記のため、経年変化を示すことができないのでグラフはありません。

県や全国との平均IRTスコアを比較すると、県より32ポイント、全国より25ポイント下回っております。またIRTスコアを５段階に区分した学力の分布では、県や全国と比べて上位層の割合が少ない状況にあります。

技能別に見ると、「話すこと」「聞くこと」は県や全国と同程度である一方、「読むこと」「書くこと」に課題が見られました。特に「読むこと」に関する問題 6 では、比較級の文章とグラフの情報を関連付けて判断すること、「書くこと」に関する問題 11 ①では、場面に応じて適切な時制を選択し、不規則動詞の過去形を用いて英文を書くことに課題が見られました。

比較級や時制といった英文法の定着を図りつつ、それらを『文章と図表を関連付けながら必要な情報を整理する活動』や『実際の場面や状況を踏まえて既習表現を用いて英文を書く活動』の中で活用することで定着を確かなものにすることを授業で大切にしていきましょう。

児童生徒質問紙より

今年度の「児童生徒質問紙」の結果について、「当てはまる」と「どちらかというと当てはまる」まで含めて結果を分析しました。まず、児童生徒ともに全国や県の平均回答率を上回る、若しくは改善傾向や継続して高い回答率の質問項目には、主に以下のものがありました。（教科の学習に対する質問紙は除く）

全国や県の平均を上回る・改善傾向にある質問項目

- 1　朝食を毎日食べていますか
- 2,3　毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか、〔起きていますか〕
- 6,7　学校の勉強のことについて〔悩みについて〕、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか
- 9　先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 11　人が困っているときには、進んで助けていますか
- 12　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 14　人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 26　学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
- 27　昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室にどれくらい行きますか



逆に、全国や県の平均を下回る、若しくは改善傾向が見られない質問項目には、主に以下のものがありました。

全国や県の平均を下回る・改善傾向が見られない質問項目

- 16　自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- 33　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- 36-4　あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか
- 57　５年生のとき〔1、2年生のとき〕までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか

児童生徒質問紙の結果について

これらの結果から「生活習慣」や「規範意識」、「読書習慣」などが育まれていることが分かりました。また、ICTを多くの学習で活用することも継続されています。しかし、ICTの活用時間の多さに比べて「PC・タブレットなどのICT機器を使って○○することができる」という自信につながっていないといった傾向も見られました。自校のICTを活用している学習内容を見直し、必要課題に対して新しい取組を増やすばかりでなく、自校の取組を見直し、内容を工夫することで、成果につなげることも考えられます。以上が今年度の恵那市の全国学力・学習状況調査の結果です。このような結果や分析、以下の授業改善チェックリストを参考に、各校に合わせた教育活動を工夫していただきたいと思います。

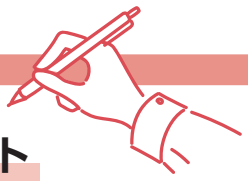
令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

さらに詳細な結果や分析は恵那市ＨＰに掲載しています。こちらもご覧ください。
https://www.city.ena.lg.jp/soshikiichiran/kyoikuiinkai/kyoikukenkyusho/2/1242.html



Check List

授業改善チェックリスト



- ☐ 漢字や文法事項等について、確かめたり復習したりする時間を確保している。
- ☐ 一人一人が自分で問題文を読み、状況や聞かれていることを把握するための時間を確保している。
- ☐ 単元の終末には、立式や考えの根拠となる数直線や図、表、グラフ等を「児童・生徒自身でかく」よう働きかけている。
- ☐ 英文と図表を関連付けて情報を整理したり、実際の場面を想定して英文を書いたりするなど、既習の文法事項を活用する時間を確保している。
- ☐ 終末で、学習状況に応じた学習活動の成果を価値付けたり、課題となった内容や、課題を解決するために取り組むとよいことを助言したりする工夫を行っている。
- ☐ ＩＣＴ活用では、資料の提示や提出だけでなく、作文やプレゼン作成等の使い方を経験する機会がある。

特集 防災教育について考える 【恵那東中学校】



今年度、恵那東中学校は文部科学省の指定を受け、防災教育の一層の充実を図っています。本号では、その取組の一端を紹介します。この機会に、恵那東中学校の実践から学びながら、各校においても自校の防災教育を見直し、「今ある取組をさらに充実させるために何ができるか」「新たに取り入れられることはないか」を考えるきっかけとしていただければと思います。

恵那東中学校の防災教育の取組

恵那東中学校では、「自らの命を守り、仲間と協力し、地域を支える人を育てる」を基本理念に、防災教育を単なる災害対応の学習ではなく、「命の教育」として位置付け、「防災学習」「防災CS」「命の日」を三つの柱として展開しています。

そして、これらの取組を通して、生徒が防災を「自分ごと」と捉え、一人一人が災害時に自ら判断して行動できる力を身に付けるとともに、地域の一員として周囲を支えることのできる人材へ成長することを目指しています。

1 「防災学習」

学年ごとに内容を系統的に設定し、自助・共助・公助について段階的に「防災学習」を進めています。

1年生では、DIG(災害図上訓練)に取り組みます。地域の危険箇所や避難経路を地図上で確認しながら、災害時に自分の命を守るための行動について考え、自助の力を養います。

2年生では、HUG(避難所運営図上訓練)を実施します。避難所で起こり得る様々な課題について話し合い、多様な避難者への配慮や協力の大切さを学び、共助の力を高めます。

3年生では、実際に避難所を開設する訓練を行います。地域防災組織とも連携しながらロールプレイ形式で避難所運営を体験し、支援者として行動する力や公助について理解を深めます。



「防災学習」 一年生DIG

2 「防災CS」

「防災CS」は、岩井慶次氏(恵那市防災研究会代表)を指導者とする、防災に関心の高い生徒が参加する地域ボランティアクラブです。地域防災組織と連携しながら実践的な活動を行っています。防災倉庫の点検や地域防災訓練への参加、避難所設営図の見直しなどの活動を通して、生徒が地域防災の担い手として主体的に関わる機会を設けています。生徒たちは「恵那東中学校防災リーダー」として、学校や地域の防災力向上に貢献し、「地域を支える力」を育む取組となっています。



「防災SC」 大井町防災訓練

3 「命の日」

本校では毎年7月に「命の日」を位置付けています。「生きる」をテーマにした講演会を実施し、防災に限らず多様な視点から命の大切さについて考える機会を設けています。今年度は、石巻市立湊中学校　平塚真一郎校長先生をお迎えして講演会を実施しました。平塚先生には、ご自身の東日本大震災体験も織り交ぜながら、命の大切さを伝えていただきました。この取組は、防災教育の根底にある「命を守る」という視点を見つめ直し、他者を尊重する態度を養う重要な機会となっています。



「命の日」

恵那東中学校の防災教育の特徴は、防災を単なる災害対応ではなく「命の教育」として位置付けている点にあります。また、学年の発達段階に応じて自助・共助・公助を系統的に学ぶ防災学習、地域と連携して実践的に活動する防災CS、命の尊さを見つめ直す「命の日」など、学校・地域・生徒がつながりながら学びを深めている点も大きな魅力です。

防災教育は特別な取組ではなく、どの学校でも、既存の教育活動や地域との連携の中で工夫しながら進めることができます。今回紹介した実践を参考に、「命を守る力」「主体的に判断して行動する力」「地域を支える力」を育むために、自校で取り入れられることはないかを考え、各校の実態に応じた防災教育の充実につなげていただければと思います。

特集

こども園の特色ある活動

【飯地こども園】



心も体も強い子
～自然遊び・人との関わりの中で話し合う活動を通して～



話合いの中で子供たちから出た「やりたい」をとことん取り入れた保育をめざして「心も体も強い子～自然遊び・人とのかかわりの中で話し合う活動を通して～」を園のテーマとして今年度は話合いに力を入れ、たくさん会話をしながら毎日過ごしています。

1 夏祭りに向けて

毎年、7月に夏祭りを行いますが、夏祭りのお店屋さんをどんなものにするか話し合いました。「焼肉屋がやりたい。」「リボン屋がやりたい。」「ポップコーンを食べたい！」「踊りも見せたい。」「アンパンマンになりたい。」「盆踊りも、もちろんやる。」などなど意見が出る中でどのようにしてならできるか、年長児を中心に話し合いました。「焼肉屋をやるには何がいる。」と投げかけると「肉」「野菜」「ジュースもあったかな。」そして、「肉とか作らなくちゃ。」と紙で材料を作り始めました。「コンロがいる」「炭がいる」とみんなで、道具も作り始めました。「リボン屋はどうしてもやりたいんだよね。」という意見にお土産にあげると決め当日を迎えました。

「いらっしゃいませ！」と元気におもてなしをする子供たちは、自分たちの決めた事を、自分たちで作り上げ、自信をもって取り組む姿が見られました。





2 集団遊びで

走るのが大好きで外遊びが大好きな子供たちは、少人数ですが、鬼ごっこ、靴取り、しっぽ取り、バナナ鬼などの集団遊びが大好きです。しかし、異年齢での集団で、体力差、ルールが伝わらないなどもあり、年齢の小さい子が抜けていくことがありました。

保「『やろうよ。』って誘ってみたら。」
子「誘ったけど『嫌だ』って。」
保「嫌だって言うなら仕方ないけど、なんで嫌なんだろう。」

- **いつも私のしっぽばかり取られる**
- **取られたら終わっちゃう**
- **追いかけられると怖い（２歳児）**

と年長児が下の学年の子たちから聞いてきたので、

- **しっぽは笛が鳴るまで何回でもつけられる**
- **同じ子のしっぽは取らない**
- **ひよこ組の子（２歳児）は追いかけない**

などルールを決めなおし、下の学年の子に提案して集団遊びを続行しました。子供同士で話し合うと集団遊びも何回も続けることができました。

しっぽ取りは上記のルールで
楽しんでいます



自分自身の考えで折り合いをつけて、友達と関わりをもつという事は、「主体的」に動いているという事だと聞きました。

自分の考えで主体的に動く、自分の考えで折り合いをつけて動くなど、今後も話し合いながら、子供たちが主体的に動ける活動を工夫して心も体も強い子を育てていきたいです。





令和8年度　夏休み
恵那市児童生徒 科学作品審査会・読書感想文審査会の結果

恵那市科学作品審査会

（敬称略　題目・氏名は、作品表記まま）

審査結果　優秀賞

題　目	学校名	氏　名	備　考
ふしぎなあさがお	長島小学校1年	やまだ　さや	三好学賞
かたちみつけ	明智小学校1年	いとう　きざし	三好学賞
虫の色のなぞ　虫はしんだあと色がかわるの？	東野小学校2年	常川　と し	
アカハライモリのかんさつ　「たべものとふかのこと」	大井第二小学校2年	みちむら りかこ	
たねがない！？	岩邑小学校3年	河田　弦翠	三好学賞
ボトルフリップ何をすれば立ちやすくなるのか！？	長島小学校5年	吉村　明花音	
ぼくらの川はきれいかな？	長島小学校5年	庄司　隆一郎	
手の汚れとカビの関係	長島小学校5年	勝　湊大	
家でプラスチックを作ってみよう	東野小学校6年	加納　怜	
パーフェクトコンポスト～我が家の生ゴミ問題解決策をさぐる～	三郷小学校6年	下川　歩	
アリの研究⑥ムネアカオオアリ2年目のコロニーでの実験「コロニーの衰退を止めどう復活させるか」	恵那東中学校1年	河合　るりの	
氷はなぜ冷たくなるのか？～塩が起こす温度の不思議～	恵那南中学校1年	高瀬　琉奈	

読書感想文コンクール　恵那市作品審査会

（敬称略　題目は作品表記まま）

審査結果　優秀賞

	感想文の題目	書　名	学校名	氏　名
低学年	だいすきなヨシタケシンスケのほん	りんごかもしれない	長島小学校1年	安藤　未来希
	ことばはこころのまほう	ララのまほうのことば	大井第二小学校2年	鈴木　笑彩
中学年	自ぜんについて考える	ぼくらの青	山岡小学校3年	西尾　七穂
	自分らしくおどるってなんだろう	ぼくらしくおどる	長島小学校4年	上田　麻悠香
高学年	「ワンダー」が教えてくれたこと	Wonder　ワンダー	長島小学校5年	加藤　亮佑
	金メダルを取ることが、最終目的ではない	Link	大井小学校5年	藤井　晃陽
中学校	高校野球とは	最後のプレイボール 甲子園だけが高校野球ではない	恵那西中学校2年	岡本　晃侍
	チームの意味	リュウグウの砂に挑む： チームで小惑星のサンプルを分析	恵那南中学校3年	大島　舞

温故知新

教育の礎



長島小学校
校長 西戸　千穂

教職に就いて36年。そのうち24年間を中学校で勤務しました。若い頃、小学校勤務を希望しましたが、「大雑把だから小学校の丁寧な指導には向かない。」と言われたことがあります。その後も中学校勤務が続き、自分は中学校向きだと思っていました。

ところが5校目で小学校へ異動になりました。その時、強く心に残ったのが1年生担任のH先生です。H先生は板書の字が美しく、言葉遣いも丁寧でした。子供の目線に合わせて話を聞き、穏やかな口調でよい姿は認め、よくない姿はその場で正す。毎日ノートを確認し、一人一人を大切に指導してみえました。H先生の後ろを1年生が並んで歩く姿は、まるでカルガモの親子のようでほほえましいものでした。子供たちは担任の言葉だけでなく、その姿そのものを手本にして育っているのだと感じました。

小学校1年生は義務教育9年間の出発点です。学習への向き合い方や生活習慣、人との関わり方など、後の成長につながる礎を築く大切な時期です。そして、その礎を築く1年生担任の仕事の重さと尊さを、私はH先生から学びました。

大雑把な私も1年生と同じようにH先生の姿を真似して過ごしました。今も挨拶の際には必ずお辞儀をすることを心掛けています。教育の礎を築くことの大切さを教えてくださったH先生との出会いは、私自身の教師としての礎にもなっています。